

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（12月）

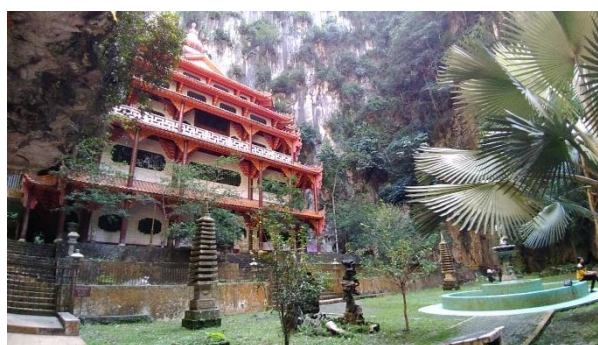
派遣先大学：マラヤ大学（マレーシア）

国際地域学部 3年 安江詠星

・はじめに

こんにちは、マレーシアのマラヤ大学に留学中の安江です。気付けば留学してから4ヶ月、1つ目のセメスターが終わろうとしています。マラヤ大の年末年始のスケジュールは、12月の後半に最後の授業週間とレポート地獄、そして年末年始の「勉強休み」期間があり、年明けにテスト、そして1月の半ばから1ヶ月の長期休みといったものになっています。いまこの報告書を書いているのはまさに年の瀬、大晦日です。大晦日と行ってもマレーシアに来た日と同じ天気、同じ気温なので全く年末感がありません。またこの休み期間は一応勉強期間ということですが、交換留学生は大抵クリスマスの前後からインドネシアのバリ島やマレーシアの離島などのリゾート地に行っている模様で、インスタグラムの映え度がすごいです。自分はそんなおしゃれなことは出来ませんでした。とりあえず大学から出たかったのでイポーというKLから200キロ離れた美食の街に2泊3日で行ってきました。ただただ美味しいご飯を食べただらだらすという旅でしたがリラックス出来たので良かったです。ただ一方でレポートと試験勉強に追われてもいます。毎年クリスマスの時期は何かしら課題に追われていましたが今年も平常運転でした。クリスマスといえど図書館に来てみると多くのローカル生徒が勉強しているので改めて試験に対する真剣度を感じました。

（写真：イポーにて。中華系の街なので洞窟寺院が多いです。ご飯も全て絶品で特にもやしが有名。たかがもやしですが本当に美味しいです。）



・マレーシアのクリスマス

さて、12月といえばクリスマスです。しかしマレーシアはイスラム教が国教の国です。果たしてマレーシアにクリスマスの的なものはあるのでしょうか。以下の写真をご覧ください。



めっちゃあります。これはあるショッピングモールとツインタワーですが他のどのモールにも同じようなツリーがあります。日本と一緒に要するにクリスマス商法、金の匂いであふれています。右の写真に関しては一番近いネズミーランドは香港か上海なのになぜマレーシアにネズミーがいるのかは謎です。ただクリスマスと言っておけばモノが売れるのはどこも一緒のようです。一体何回ショッピングモールでジングルベルとマライヤ・キャリーとワム！を聞いたことでしょうか。毎日平均気温 30 度の常夏の国でのクリスマス。チキンは毎日摂取して飽きているのでクリスマスイブの日は友達と豚肉を食べに行きました。マレーシアではいくら国教はイスラム教といえども、なんだかんだ多民族国家なので色々な宗教の色々なイベントが年中通して開催されています。クリスマスや旧正月など、それだけそのイベントで経済が回っているのではとったりもしています。

・親様が来られた話とデモ、マレーシアの民族問題について

今月は前半の方に親が来るというイベントがあり、久しぶりに観光客視点からみたマレーシアを体感することが出来ました。自分がタイに行ったり、友達や家族が短期でマレーシアに来たりという時にその国の印象を聞いてみると長期的に住んでいる人とは違うもので面白いです。一方で四ヶ月なんかでは分からないことも多くあります。今回の親がマレーシアに来たタイミングに、クアラルンプールで一つの大きな集会がありました。まず、ICERD という「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」という国連が提唱している条約があります。名前の通り、要するに「どんな形であれ人への差別はやめましようよ」っていう条約なのですが締約国が日本も含む 179 ヶ国ある中、実はマレーシアは加入さえもしてきませんでした。その背景には国の安定の根幹となっているマレー人優遇政策があります。当初はマハティール首相（世界最高齢の首相であり、昨年マレーシア初の政権交代を成功させ日本でも話題になったあの人）が加入に前向きな姿勢を示したため、マレー系の間で反発が起き、このデモはそれに抗議するものになりました。この条約を批准するとなるとマレー系の人たちの立場が危うくなると考えたのです。結局しばらく経って条約には加入しない

ことを決め、このデモは「人種差別撤廃条約に批准しなくて良かった集会」に変わりました。マレーシア史上最悪の民族衝突が優遇政策に関するマレー系と華人との対立であり、それがある種のトラウマとなっているので、今回の集会は歴史を知っていればかなり緊張度が高いものでした。万が一衝突が起きてしまえばそれはある意味今まで暗黙の了解で築きあげてきた全てが崩壊してしまうということになりかねないからです。結局集会は特に暴動や混乱はなく終わりましたが、自分はこの一件でマレーシアの多民族社会の難しさが表れていると思いました。マレー人としては所得が低く、優遇政策がないとてもやってはいけない、華人としては、経済力はありつつも、公務員や大学に入る入学枠など機会の不平等に不満を感じる。さらにインド人は経済力も、機会も平等に得ることが難しい。あくまで平均値の話であり、民族の中でも高所得の人がいればそうでない人も高学歴である人もればそうでない人もいますし「民族」という括りだけで語ることは出来ませんが、優遇政策があり不満の種がそこにあるということは、今回のデモで少し表に出てきたのではいか、と感じました。

しかし一方で、自分はニュースやデータや歴史を見て民族関係について考えているだけなので、実際にそれぞれの民族の人たちが思っているのかを理解するのはほとんど無理だと感じています。さりげなく聞いてみたり授業でそういったテーマを扱ったりインタビュー映像を見て知ることは出来ても感覚的に理解することは難しく、また人に聞くにしても非常にセンシティブな話題でもあるのです。自分はまさにそんなセンシティブな話題の、人種や政治的マイノリティについての授業を受けていますが、その中でも留学生のグループの発表は社会制度や政治について批判している一方で、ローカル生徒のグループは宗教の違いだけが差別の根拠とするなど、視点の違いがあって興味深かったです。何よりも面白いのが、その授業に僕を含めた日本人生徒数人と韓国の留学生もいるのですが、僕ら自身が「単一民族国家出身というマイノリティ」ということです。ローカル生徒をはじめ、東南アジア各国から留学している人も多いので自分の国で民族問題や宗教問題を抱えている、もしくはその歴史があるという背景を持っている人が多いのです。また、全ての授業での学びが多民族国家であることや民族問題を抱えているという感覚を前提としているので、自分にとっては全ての学びが新しく理解するのが困難でした。授業が一通り終わった今、やっと何について話しているかわかるレベルの知識がついたので今から全部受け直したら何を言っているかわかるかな、というくらいです。



(↑写真：クアラルンプール中心部を一望できるKLタワーより。親様に連れて行ってもらいました。)

・マレーシアで学びながら日本について考える

そういった授業で習ったことを他のアジアの留学生や日本人の留学生と話すのもかなり楽しいです。院生の日本の方ともたまに昼ご飯を一緒に食べながら話をしたりしています。やはり院生の方は知識量がかかなり多いのでいつも勉強になっています。最近日本では入国管理法が改正されて今後外国から人が多くやってくると言われていますが、そもそも来るのかという問題や、地域での異文化交流の困難さなど色々問題はあると思います。日本人同士でマレーシアや他の東南アジアでの民族問題について話していても大体オチは日本の話になります。日本ではどの程度報道されているのかは分かりませんが、東京のように異なる文化背景を持っている人が多くなっていくことが自然になっていたとしても、結局制度が整っていなければ、何かのタイミングでトラブルが大きくなったときに分断と排除が生れるというのは東南アジアについて学んだパターンです。多くの場合、マジョリティが何かしらの形で（無意識であろうと）優位に立ちがちですが、少なくとも人種と国籍にかかわらずフェアに扱うべきだなというのがマレーシアで学んで思っていることです。その際に「文化としての言語（＝日本語）」から「手段としての言語」を分けて使うことが出来ればいいのですが、残念ながら私たちは手段としての言語、英語を持っているとは言えないのが辛いところです。移民政策ではないので同質化もそもそも出来ない上、しかし制度として始める以上トラブルを避けたいのであれば、共存するという覚悟とリテラシーが全員に求められると思いました。

・まとめ

以上で今月の報告書となります。報告書といいつつ学んだことや考えたことを述べるだけのものとなってしまいました。未だに報告書の書き方が未だに分かっていませんが一体いつになったらマレーシアグルメについてのことを書くのでしょうか。今月は授業のまとめの時期ということもあり、色々学んだことを整理している最中で、気付いたら報告書もこんな内容になっていました。東南アジアについてざっくり学ぶというつもりでマラヤに来ましたが国や言語や文化や民族について色んな側面から考える視点を持てたのは良かったです。と、まあ偉そうに書いていますが実際のところ自分の実力とスケジュール管理不足のせいでレポートの内容も十分に掛けずかなり成績がピンチの様相です。失敗は反省して来セメに活かすとして、とりあえず試験を頑張って単位取得を目指したいと思います。なんか毎月同じ事を言っている気がします。後輩にはどうかこんな先輩みたいなことはやらさないでくださいという思いでいっぱいです。

(↓ハッピーニューイヤーの瞬間。この前後でかなり量の花火が近距離であがりました。その後みんな騒いで街が世紀末状態に。)

